JB カラコミュ!! Vol.14
2019年08月 発行
株式会社ジェイブレーン

『魅せる』『伝わる』色彩コミュニケーション!!

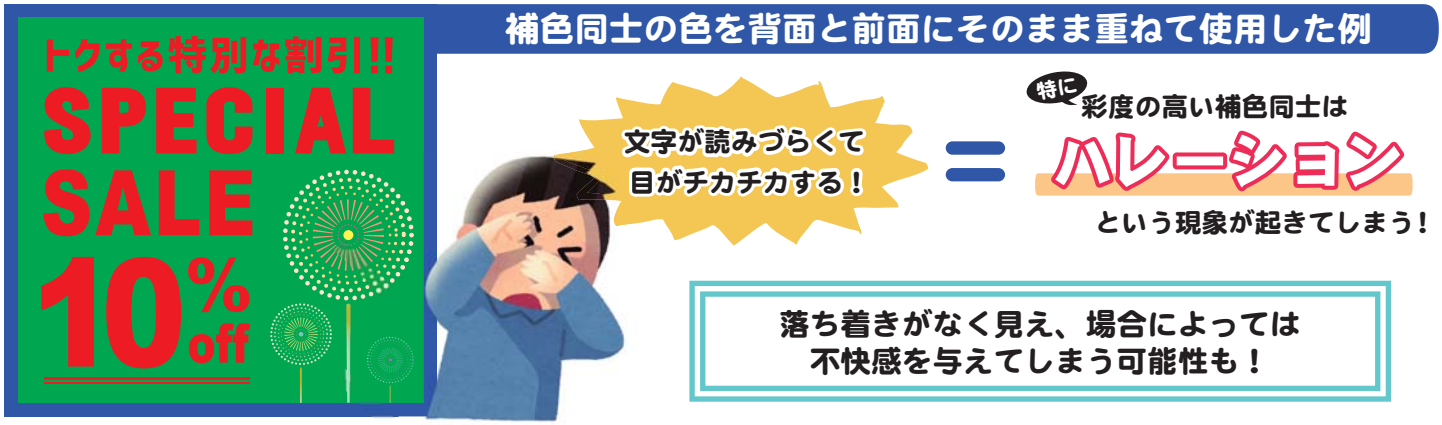
補色の特性を知って、目をひくデザインに！

デザインに手軽にアクセントをつけることができる『**補色**』。しかし、間違った使い方をしてしまうとかえって見づらいデザインに仕上がってしまい「扱いが難しい！」という声をよく耳にします。
補色についてはカラコミュvol.6・vol.12でも少し触れましたが、今回はさらに詳しくご紹介していきます！

まず**補色**とは、右にある**色相環**と呼ばれる図で正反対に位置する関係の色合わせのことを指します。例えば右図の、赤色の向かい合わせにあるのは青緑色。つまり、赤色と青緑色は補色同士であると言えますね。

実は、補色同士の色を使うにはちょっと注意が必要なんです。では、実際に補色同士をデザインに取り入れた例を見てみましょう！

補色同士の色を背面と前面にそのまま重ねて使用した例

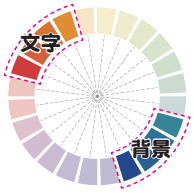


補色は目立たせるために使用する一方、互いの色の特徴を消し合う存在でもあります。補色の色同士は混ざり合うと**無彩色**(白・黒・グレー)になるという特性があるため、補色の色味をそのまま重ねてしまうと、重なり合う色と色の境目がぼやけて見えてしまうんです。
では、どうすれば補色を使いつつハレーションを解消することができるのでしょうか？ 簡単な方法は、右の例のように色と色の境目に白色や黒色などの**無彩色**で補うことです。

「補色を使いこなすのは難しい」と感じてしまった方もいるかもしれません。しかし、補色を取り入れた配色は、目をひくデザインを作成するためのとても効果的な配色のひとつです。
そこで、裏面では補色を上手く活用している例をご紹介します。補色はアクセントとして部分的に取り入れるだけであれば、配色が苦手な方でも活用するのはとても簡単なんです！

デザインの種

今回のテーマ：
「背景に合わせた補色を使ってみよう」



左にある色相環の通り、青色の補色は橙色になります。今回は、青系統の背景に合わせてアクセントとなる橙色の配色をしたデザインの例をご紹介します！

注目すべき点が
一目で分かるように！

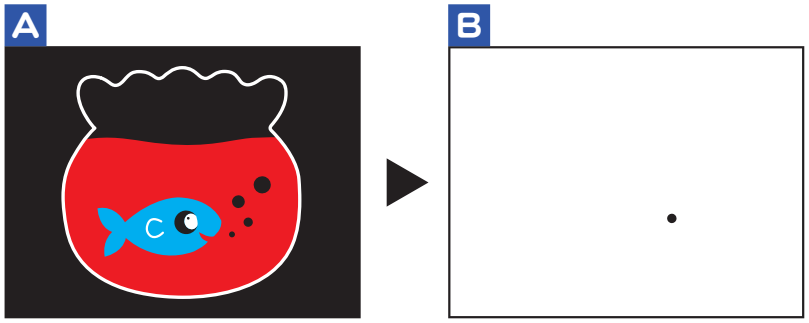
文字の色を変えて
全体の印象も明るく！

デザインを作っていて「何か足りない…」と行き詰まった時、解決策のひとつとして今回ご紹介した背景色・写真の色と相対する補色の活用をお試しください！

イロイロ雑学

「心理補色」の効果で色が入れ替わる！？

Aの青い魚が血の海を泳いでいるような不気味なイラスト。このイラストの魚が吐いている黒い泡を数十秒間、なるべく瞬きせずに見つめてみてください。その後、Bの図の中にある黒い点に視線をずらして瞬きすると…視界にぼんやりと、何かが浮かんで見えませんでしたか？

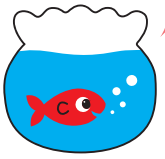


このように、補色の一方の色を見つめた後、白い紙などに視線を移すと、残像として補色のもう一方の色が現れます。これを**心理補色**と呼びます。

例えば、日常的に手術を行う医師は赤い血液を長時間見つめるため、緑色の残像に悩まされていたそうです。そこで、補色残像を和らげる効果がある色として、手術室の内装や手術着に薄い緑色が採用されました。

補色の効果は身近な商品にも取り入れられていて、例えば牛乳のパッケージに青色が使われていることが多い理由のひとつは、補色残像の黄味系色が白い牛乳を濃厚に見せる効果があるからだそうです。世の中にある多くの物は、きちんとした理由があってその色が採用されているのだと思うととても興味深いですね。

瞬きすると…
こんな風に見えませんか？



色彩を使った印刷物で、より良いコミュニケーションを！ 次回も Let's カラコミュ!!